

<動向> 『高尾山薬王院文書』 第一巻の刊行

(出版者 / Publisher)

法政大学史学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政史学 / 法政史学

(巻 / Volume)

42

(開始ページ / Start Page)

106

(終了ページ / End Page)

108

(発行年 / Year)

1990-03-24

『高尾山薬王院文書』第一巻の刊行

『高尾山薬王院文書』第一巻が、一九八九年(平成元)十月三十一日付で法政大学多摩図書館地方資料室委員会から発行された。薬王院文書については、すでに『法政史学』第三九号(昭和六十二年三月)において「高尾山薬王院文書の調査について」、同第四一号(平成元年三月)における『高尾山薬王院文書』史料集について」によって、それぞれ史料調査の内容について紹介した。

高尾山薬王院文書を、はじめ、調査したのは、昭和三十五年(一九六〇年)の東京都教育委員会が実施した浅川流域文化財総合調査が行われたときであったが、それから二十六年後の昭和六十一年五月に法政大学が薬王院文書の調査覚書の調印式を行い、文書の全貌をはじめ調べてみるようになったのである。法政大学では地域文化に寄与していくことを願ひ、多摩地区の地域性を解明していくため、地元の研究にも参加していただき、ここに三年六か月を経て第一巻を刊行することができた。調査団の構成は委員に村上直(团长)・関口恒雄・安岡昭男・段木一行の四教授と馬場憲一講師。調査員には河野朝子・新城美恵子(本学大学院修了)・竹内総子

(元本学聴講生)・平沢信子(本学大学院修了)・堀田トヨ(本学通教卒業)・真野みつ子・光石知恵子の七氏と水久保克英(本学大学院生)・吉岡孝(本学大学院生)の二君。それに事務局には渡辺岩井氏に代って飯村裕次氏が当たられた。

第一巻は、A5判、五五五頁。『高尾山薬王院文書 第一巻』の題字は、薬王院貫首の山本秀順氏にお願いした。同書の序文には次のように記してある。

高尾山薬王院有喜寺は、真言宗の関東三山の一つに数えられる屈指の名刹である。この薬王院の歴史は古く、寺伝の縁起文によると天平一六年(七四四)、行基菩薩が勅命を奉じて開山したとある。その後、永和年間(一三七五〜七九)に山城国醍醐寺より俊源大徳が入山し、飯縄大権現を勧請してから東国鎮護の総本尊として多くの人々の信仰を集めるようになったと伝えられている。とりわけ高尾山は戦国時代には関東に君臨した後北条氏によって厚く保護されたが、やがて江戸時代になると江戸周辺の山岳信仰の霊場として、広く武家・庶民の信仰を集

めるようになり、山容の整備と共に講中による登拝が盛んになり、一層の繁栄がみられた。明治期以降には多摩地域の発展と密接な関係をもちながら、参詣人の範囲は関東・東北、さらに広範な地域に及び現在に至っている。

法政大学では多摩キャンパスの図書館内に地方資料室が設置された機会に、地域文化の発展に寄与していくため高尾山薬王院文書の調査と研究を計画したが、山本秀順貫首をはじめ薬王院各位の深いご理解によって、一九八六年(昭和六一年)に高尾山薬王院文書調査団を結成し、文書の調査と整理の作業を開始した。翌八七年には「高尾山薬王院文書目録」を発行したが、その後の追加資料を加えて、二五七三点の全文書の整理を完了した。文書類は一三項目に分類されたが、その内容はきわめて多岐にわたっており、高尾山薬王院の法燈を伝える諸文書をはじめ、寺院の経営や末寺との関係、他の諸寺院や講中などによる庶民の信仰の状態、そして戦国大名、江戸幕府や紀州藩、明治政府と高尾山の関係を明らかにすることができる。寺院及び歴史関係の貴重な史料が数多く含まれている。

高尾山薬王院文書調査団では、文書目録に基づいて、とくに重要と思われる文書を全三巻に収めて刊行することにして、収録文書の選定と解読の作業を進めてきた。ここに第一巻を発行することになり、戦国期、寺歴・住職・江戸四箇寺、諸寺院、幕府・明治政府、紀州藩に関係する六項目、三一九点の文書を収録したが、各文書には一点ごとに具体的にその内容を示す標題を掲げると共に、巻末には収録文書の解説を記して、文書内

『高尾山薬王院文書』第一巻の刊行

容の理解を容易にするように配慮した。今後、本文書をさらに検討することによって、高尾山薬王院有喜寺および、その周辺の研究が、一層、促進されていくことを期待したい。

『高尾山薬王院文書 第一巻』収録の文書数は三一九点であるが、その内訳は次のようになる。

- | | |
|-------------|-----|
| 一 戦国期関係 | 一〇点 |
| 二 寺歴・住職関係 | 九二点 |
| 三 江戸四箇寺関係 | 三四点 |
| 四 諸寺院関係 | 五二点 |
| 五 幕府・明治政府関係 | 六九点 |
| 六 紀州藩関係 | 六二点 |

右の中で最も古いのは天長二年(八二五)三月五日の空海が真雅に授けた秘法伝授の文書の写し(九頁)である。実物では永禄三年(一五六〇)十二月二十八日の北条氏康の薬師堂修理についての判物(三頁)である。また、最も新しい時期のもので年次の明確なものは大正五年十月二日の東密真言宗血脉(一四〇頁)である。文書には、一点毎に内容を示す標題を掲げると共に、梵字は、原文書のまま掲載することにした。さらに文書の内容を読みやすくするため適宜読点と並列点を加えている。このような点を配慮し、多くの人々が文書の内容に親しめるようにしたが、特に末尾に全収録文書の解説(執筆は村上直・関口恒雄・馬場憲一の三氏)を記し、内容の理解を深めることができるようにしてある。

第一巻の収録文書の特色については、次のような点があげられる。まず、実物の戦国期の文書が一〇点も所蔵されていることは

注目される。戦国期から江戸初期にかけて、領主が山林伐採を禁じ、山を保護しようとしていることがよく分かる。なお、薬王院中興の開山は俊源であるが縁起文にはあるが、調査の結果、俊源関係の文書は少なく、その師である俊盛の方が関係文書の多いことが明らかになった。また、真言宗においては、江戸時代になると社奉行から江戸の四箇寺(円福寺・真福寺・弥勒寺・根生院、但し貞享四年以前は知足院)を通して配下の寺院に下達され、願書や届けは薬王院や門末の諸寺院から四箇寺に出されている。こうした触頭制度についてもその実態を明らかにすることができた。さらに興味深いのは、薬王院が紀州藩の祈禱所であったことから、種々の文書が収録されていることである。その中には薬王院の建物修復料の寄進や藩主・側室・女子の健康、病氣回復、また安産祈願などもあり、紀州徳川家との関係も明らかになった。このように高尾山薬王院文書は、これまで未知であった部分も数多く解明され、歴史学界にも寄与していくものと思う。研究者の活用を大いに期待していきたい。

なお、『高尾山薬王院文書』は、希望者に四〇〇〇円(郵送料切手三六〇円)で販売する。

申込先は、

〒191-02 町田市相原町四三四二

法政大学多摩図書館地方資料室

(村上 直)

【会員編者書抄】

村上 直共編

『藩史大事典』中部編Ⅱ(東海)

雄山閣 平成元

『藩史大事典』近畿編

雄山閣 平成元

『藩史大事典』中部編Ⅰ(北陸・甲信)

雄山閣 平成元

『藩史大事典』関東編

雄山閣 平成元

『山梨県姓氏歴史人物大辞典』

角川書店 平成元

『川崎・幸区地誌』

有隣堂 平成元

村上 直編

『日本海地域史研究』第九輯

文献出版 平成元

『日本近世史研究事典』

東京堂 平成元

村上 直共監修

『日本史分類年表』机上版

東京書籍 平成元

村上 直・高橋 克弥共編

『文化五年仙台藩蝦夷地誓固記録集成』文献出版 平成元

川岸 宏教編

『日本仏教史1 飛鳥時代』

雄山閣 平成元

岩壁義光編

『横浜絵地図』

有隣堂 平成元

芥川龍男著

『豊後大友一族』

新人物往来社 平成二